

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」は全体－協働－個別のバランスの中で実現－そのように言ってくれば実践は進みます (文科省サポートマガジン『みるみる』令和7年4月より)

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問
東京大学大学院教育学研究科 客員教授

<https://smizok.com/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。

*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の研究委託を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程企画室（編）

『個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のためのサポートマガジン『みるみる』』（令和7年4月）



Point 1

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」をガイドする『みるみる』の**基礎編①**で、まず「主体的・対話的で深い学び」を説くことから始めている

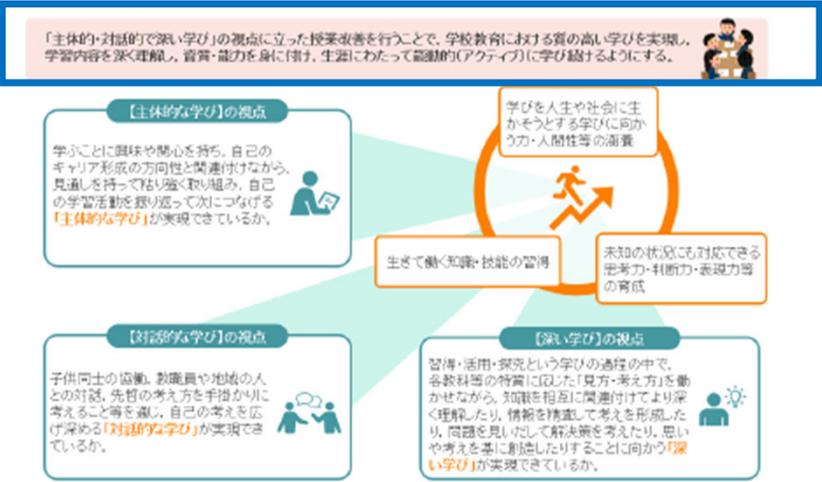
目次	
【はじめに】	「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」のためのサポートマガジン『みるみる』 3
【基本編①】	これからの時代に求められる子供たちの資質・能力 5
【基本編②】	「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の意義 8
【基本編③】	「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に関するよある疑問 12
【基本編④】	「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」をどのように進めていくのか？ 16
【実践編①】	実践編の内容と読み方・使い方 19
【実践編②】	全ての子供が熱中できる単元づくり ～「ワクワク」「資質・能力」のどちらも諦めない！ 戸田市立戸田東小学校の挑戦～ 20
【実践編③】	子供一人一人が学びの主役となる「複線型」授業づくり ～学習の自己調整と協働を ICT が支える！ 富山市立芝園小学校の挑戦～ 27
【実践編④】	自律した学び手をつむぐ「山吹セレクトタイム（YST）」 ～「豊かに学び合う環境」で子供の学びに寄り添う！ 名古屋市立山吹小学校の挑戦～ 36
【実践編⑤】	子供と教師がともに追究する「主体的・対話的で深い学び」 ～「単元マップ」と「豊富な手立て」で誰一人取り残さず学習のゴールへと導く！ 加賀市立山代中学校の挑戦～ 45
【実践編⑥】	1人1台端末の活用を軸にした「生徒が主体的に学ぶ授業」 ～「ラーニングガイド」×GIGA×教師の支援で学びの質を高める！ 吉田町立吉田中学校の挑戦～ 56
【実践編⑦】	「生徒が自分たちで考え、探究する授業」づくり ～ICTを活用した探究的な学びと豊かな協働で生徒の学びを深める！ 宮城県仙台第三高等学校の挑戦～ 66
【実践編⑧】	一人で、粘り強く、最後まで探究する「フリースタイルプロジェクト」 ～子供の多様性を前提に「学び続ける子供」を育てる！ 天童市立天童中部小学校の挑戦～ 77
【実践編⑨】	「好き」から始まる「My 探究」 ～学年に応じたステップで課題発見・解決能力を育む！ 福山市立福山中学校の挑戦～ 86
【実践編⑩】	地域と共に、地域の課題を解決する「笛吹グローバル」 ～生徒一人一人の思いを生かした探究により、社会に必要とされる資質・能力を育成する！ 山梨県立笛吹高等学校の挑戦～ 94

【基本編①】

これからの時代に求められる子供たちの資質・能力

#03 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

学びの「成果」として、子供たちが学んだことを人生や社会の在り方と結び付けて深く理解しながらこれからの社会で求められる資質・能力を身に付けていくためには、子供たちが学校における学びの「過程」において、主体的に学ぶことの意味と自分の人生や社会の在り方と結び付けたり、多様な人との対話を通じて考えを広げたりすることが重要と考えられます。また、単に知識を記憶する学びだけがとどまらず、身に付けた資質・能力が様々な課題の対応に生かせることを実感できるような、学びの深まりも大切です。
「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善とは、特定の指導方法の「型」の普及を指すので



「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにする

Point 2

基礎編②

全ての子どもが「主体的・対話的で深い学び」をできるとは限らず、「個別最適な学び」を提唱する必要があった（令和答申）。

- 子供の多様性、特異性の配慮
- 誰一人取り残さず全ての子どもに（包摂性）

Point 3

基礎編②

その上で「協働的な学び」を追加

- 個別最適な学びで「個が孤立してしまわないように」配慮

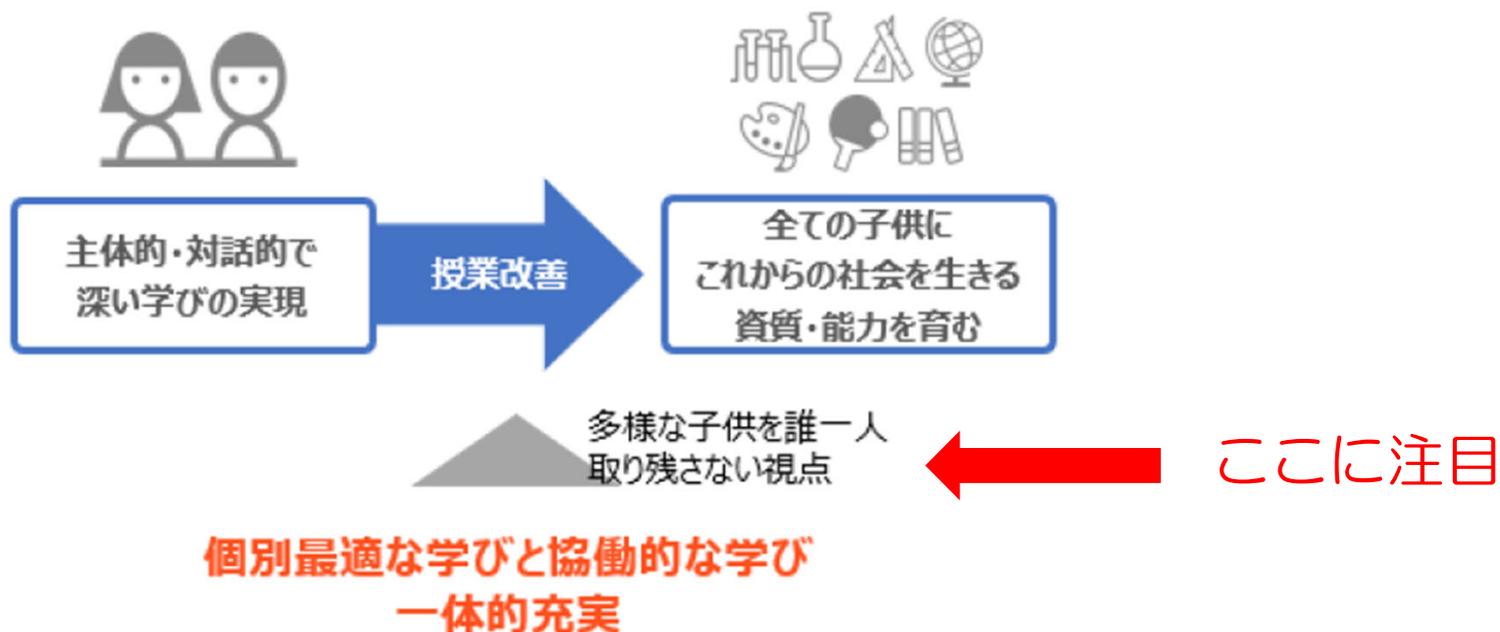


Point4

基礎編②

全ての子どもが「主体的・対話的で深い学び」をできるとは限らず、「個別最適な学び」を提唱する必要があった（令和答申）。

- 子供の多様性、特異性の配慮
- 誰一人取り残さず全ての子供に（包摂性）



この説明は混乱を招いています

特集Ⅰ これからの学校の価値の最大化を考える
～わかりやすい授業づくりと笑顔があふれる学びづくりを通じて～

「個別最適な学び・協働的な学びの一体的な充実」 では対話力は育たない

溝上 慎一
学校法人桐蔭学園理事長・桐蔭横浜大学教授

本稿は、「高校教育」（1月号、2024年12月発刊）での拙稿「主体的・対話的で深い学び（現行学習指導要領）」を徹底的に基礎にして改訂審議を行いたい」の論考を発展させて論じるものである。可能なら、それを読んで本稿を読んでいただく方がいいが、本稿だけを読んでわかるようにしておく。なお、本稿が刊行される頃には、文科大臣の諮問を受けて、中央教育審議会教育課程特別部会における次期学習指導要領改訂に向けた審議が始まっているはずである。その進行によっては、本稿で示す危惧が杞憂で終わっている可能性もないとは言えない。是非そうであってほしいと願う。

1. 「個別最適な学び・協働的な学び」の発出

2020年4月、新学習指導要領が小学校から施行開始となった。と同時に、1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備するGIGAスクール構想が開始された。他方で、新型コロナウイルスの感染が（2020年）年明けから拡大しており、（2020年）3月の終業式、4月の入学式は多くの学校で中止あるいは延期された。政府からは、ステイホームや感染症対策として3密（密閉、密集、密接）を避けることが連呼され、学校で

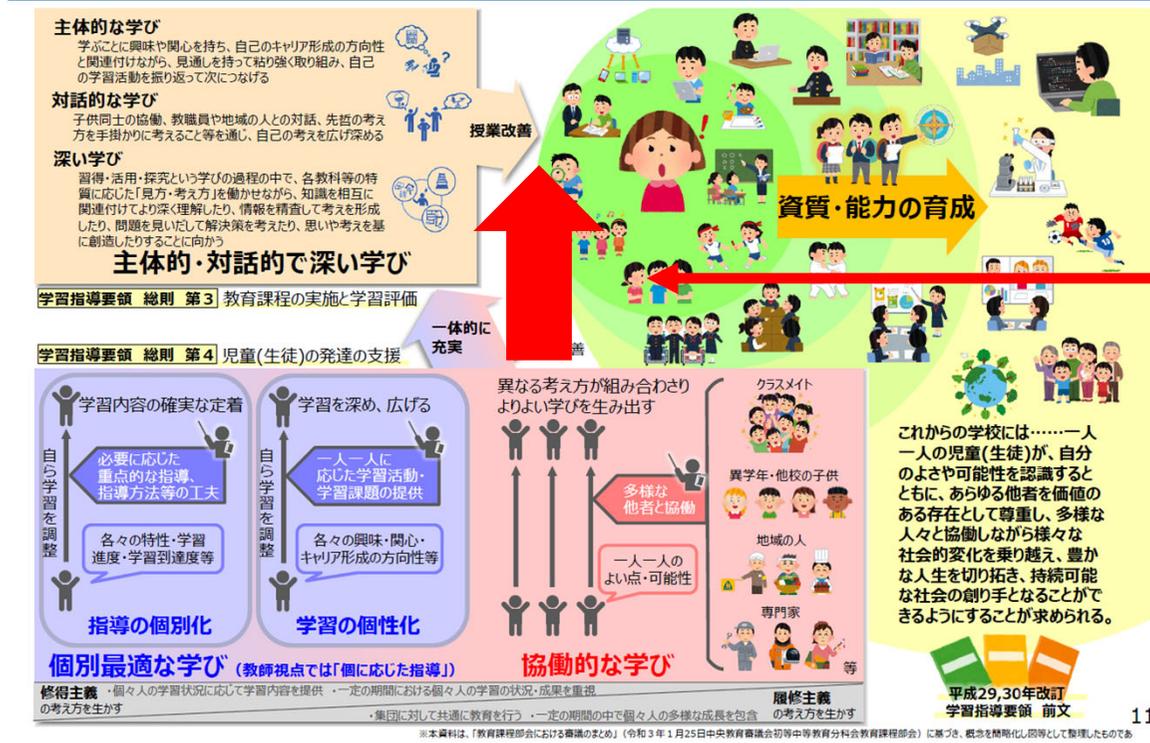
の対面授業や行事等は通常通りに行われなくなった。新学習指導要領の大きな柱の1つである「主体的・対話的で深い学び」を推進するどころの状況ではなくなってしまった。

このような中、4年間で計画的に実施する予定にしていたGIGAスクール構想のハード面の予算配分を、補正予算をつけて前倒し実施したことは当然の運びであった。拡大するコロナ禍の中で、ICT利用による自宅等でのオンライン学習や学習保障が切実に求められたからである。「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」（令和3年1月26日、以下「令和の答申」）は、このような状況を強く受けてまとめられた。「個別最適な学び」は、学習履歴を活用した個別指導やAIドリルなどのICTの利活用を促し、ひいてはGIGAスクール構想を補完する学びとして提起された。

2. （問題1）「個別最適な学び・協働的な学び」は「主体的・対話的で深い学び」を上書きしたのか？

問題はここからである。まず第一の問題はタイトルに示す通りである。
新学習指導要領が施行され始めたその年に、

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実（イメージ）



入れるならここでしょう！

「「個別最適な学び・協働的な学びの一体的な充実」では対話力は育たない」（『日本教材文化研究財団研究紀要』No. 54, 2025年3月31日）

No320

(中教審教育課程企画特別部会第2回) (2025年2月17日開催)

ふり返り)

まず第一弾の指導要領改訂の 構造が見えてきましたか

溝上慎一

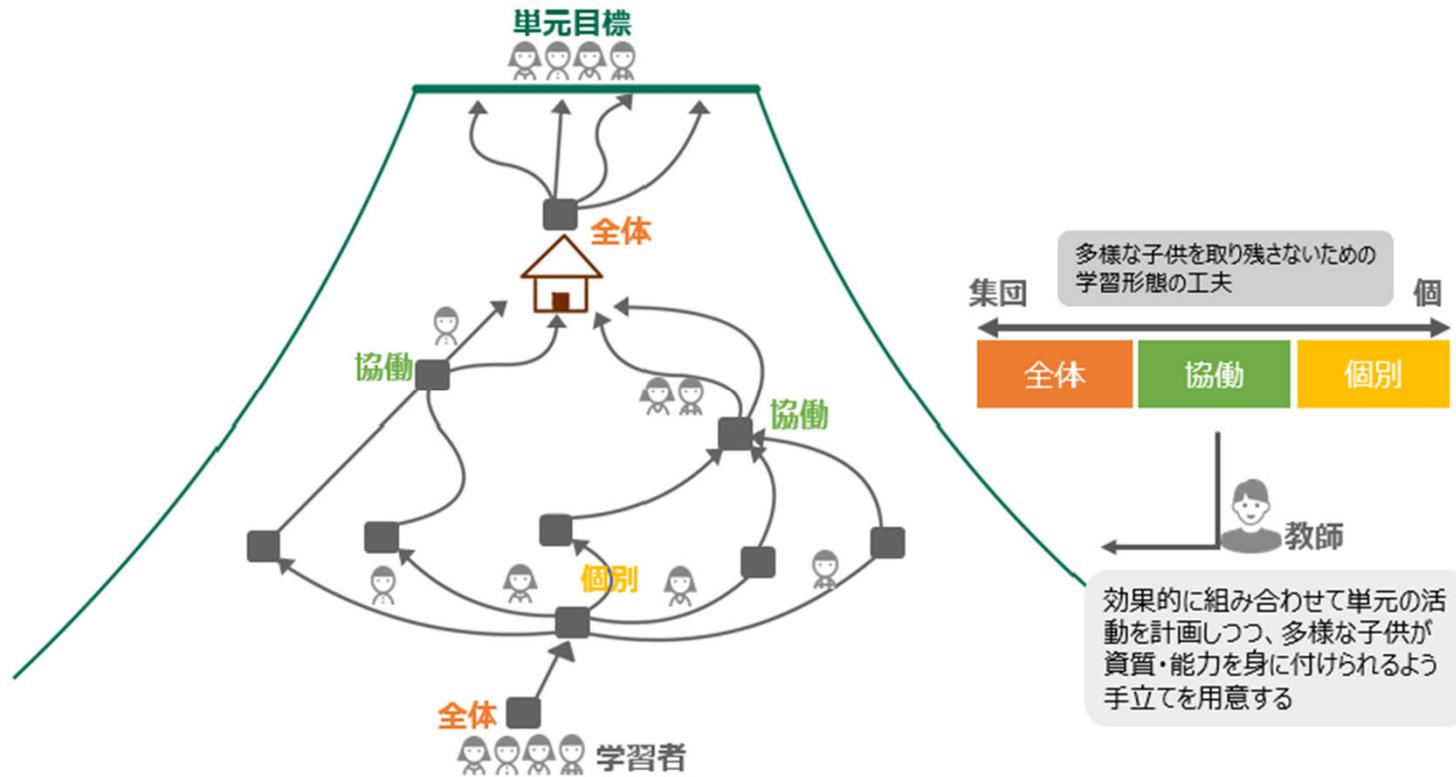
(桐蔭学園理事長、桐蔭横浜大学教授)

動画チャンネル「溝上慎一の教育論」

Point5

基礎編③

学習は「（集団）全体—協働—個別（個）」のバランスの中で行われる



ご視聴有難うございました
チャンネル登録もお願いします

質問、コメントは個人メールで受け付けます。

E-mail mizokami@toin.ac.jp

- お名前、ご所属

※可能なら専門分野や教科、職位なども教えてください、回答の助けになります。
なお、動画内では個人のお名前等は出しません。

- 質問、コメント等

